

第 45 回 三条市小中一貫教育推進委員会 会議録

1 開会宣言 令和 7 年 11 月 14 日（金） 午前 10 時 00 分

2 場 所 三条市役所栄庁舎大会議室

3 出席状況

(1) 出席委員 雲尾 周 委員長、高橋 喜一郎 副委員長、
渡邊 伸明 委員、丸山 哲也 委員、田村 和弘 委員、
長 滋徳 委員、桐生 聡 委員、関 拓也 委員、
高橋 雅博 委員、須藤 剛司 委員、住吉 英明 委員、
鮮良 靖宏 委員、中村 正之 委員、倉田 孝英 委員、
浅間 正直 委員、村田 秀雄 委員、熊倉 文一 委員、
佐藤 裕之 委員、金子 佳奈子 委員 （19 人）

(2) 欠席委員 なし

(3) 事務局職員

教育長 高橋 誠一郎

教育部長 平岡 義規

教育総務課長 野水 裕晃

子育て支援課長 小林 正芳

学校教育課長 相田 覚

教育センター長 樋口 信英

統括指導主事 畑 宏幸、指導主事 秦野 真一、
指導主事 武石 和仁、指導主事 藤井 佳介、
特別指導主事 和田 薫

4 傍聴人 なし

5 会議次第

(1) 開会

(2) 開会のあいさつ

(3) 報告

(4) 各学園の取組紹介

(5) その他

(6) 閉会のあいさつ

(7) 閉会

6 会議の経過及び結果

(1) 開会

(2) 開会のあいさつ

（雲尾委員長）

みなさんおはようございます。このところいくつかの市の教育課程の在り方検討委

員会に入らせていただいています。十日町市、それから魚沼市です。十日町市ですと生まれた子どもが1年に200人、魚沼市ですと140人という状況です。10年、15年後を見据えたところで1校にする。ただ、その中でも、子どもたちにとって一番よい教育環境かどうかということで、15才が終わったときにどういう子どもを育てるかということをしかりと見据えた上での決断になります。15才にどういう姿を育てるかということは、小中一貫教育をどのように進めるかということとほぼ同義でございます。県内の他市の動向もございますが、三条市は三条市として、どういう子どもを育てるかということを見据えて、本日もこの小中一貫教育推進委員会の御審議のほどよろしくお願いいたします。

(3) 報告

(事務局 畑)

出席者数の確認 出席者19人の委員の内、19人の委員の出席。規定により半数以上の委員の出席がありますので、本会議は成立しております。

第44回小中一貫教育推進委員会検討内容（概略）

・事務局 畑が説明(資料No.1、別紙)

(雲尾委員長)

ただいまの説明につきまして質問・意見等ありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

(4) 各学園の取組紹介

各学園の取組をプレゼンテーションで紹介（資料No.2、別紙）

・次の今年度の重点①～③に基づいて、各学園の小中一貫教育推進リーダーから学園の取組内容を説明

①小中一貫教育カリキュラムの活用

②交流活動の充実

③キャリア教育の充実

(事務局 武石)

各学園の取組発表に対して御意見・御質問等があればお願いします。

(渡邊委員)

各学園の発表を聞かせていただいた中で、小中学校で共通の認識のもとで指導ができるということで、働く職員の皆さんが同じ方向を向いて子どもたちを育てていくことができるとてもよい環境だということが伝わってきました。

また、学校運営協議会等に児童生徒が参加すること、また、マルシェや防災マップ等の作成を通して地域との関わりを強くしているようなキャリア教育を行っていくことで、三条を愛していく子どもたちが増えていくのかなということを強く感じました。そのような子たちが増えていくことで、将来的に三条市に戻ってきて、人口流出を防ぐことにもつながっていくのかなということでお話を伺いました。ありがとうございました。

(5) その他

(事務局 武石)

参加いただいた委員の皆様から全体を通してお気づきの点がございましたらお願い

します。

(田村委員)

キャリア教育の方向性について質問をさせていただきます。学園の発表を聞くと、キャリア教育の中でもアントレプレナーシップ教育（起業家精神教育）についてもお話がありました。

第二中学校、第三中学校でも三条マルシェに参加したこととか、いろいろなところで地域の方と共同しながら、地域を盛り上げるにはどうしたらよいかなどの取組がされています。本校でも、起業家の方のお話をお聞きしたりしながら、チャレンジ精神や課題解決力を付けていきたいと考えています。

今後、私としては、そちらの方向がすごく大事だと考えています。新潟県教育委員会の基礎的汎用的能力が4つありますが、プラスしてアントレプレナーシップを入れている状況であります。

私はそういう方向で行ったらよいのかなと考えていますが、三条市としてもそのような方向を考えているのかどうかということと、それから、新潟市でも地域との連携を推進するということで、地域教育コーディネーターが常駐しているというふうに認識していますが、将来的に三条市でもそのような地域教育コーディネーターなどを、各学校に常駐に近い形で考えられていられるのかについて、もしお考えや方向性がありましたらお答えいただければと思います。

(事務局 畑)

御質問ありがとうございます。今年度より三条市では、キャリア教育に重点的に取り組んでおります。今年度、キャリア教育バンクも設置したところであります。

今ほどの質問にありましたアントレプレナーシップ教育のことについてですが、三条市もキャリア教育を実社会とつながるキャリア教育と考えております。今ほどの発表にもありましたが、学園で三条マルシェとつながるなど、いろいろな取組をされています。そのことも含めましてアントレプレナーシップも考慮しながら取り組んでいきたいと考えております。

2点目の地域教育コーディネーターの設置についてですが、これはコミュニティスクールとも関係してくるところであります。できれば設置していきたいとは考えておりますが、すぐにはできることではありませんので、これから検討を重ねながら、前向きに考えていきたいと考えているところであります。

(渡邊委員)

立場としてお伝えさせていただきたいのですけれども、学校現場の教職員の皆さんから多く上がってきているものとして、小中一貫教育に関わる会議、研修等がとても多くあるという声が届いています。例えば、校内研修で行う内容と小中一貫教育で行う内容が重なり、同じような内容をもう一度やることになる。一本化できないかという話がよく上がってきています。内容、趣旨等が違うので2つやっているというところもあるかも知れませんが、ぜひ検討いただきたいと思います。

また、校務分掌についても校内の知・徳・体の校務分掌と、小中一貫教育で入っている部会にずれが生じているような方がいるということで、そこもそろえていただければありがたいという声が上がっています。限られた人数で、その部会を開催しているということもあり、ずれが生じていることも分かっていますが、そのような声が届いているということをぜひ検討いただきたいと思います。

国の方からも、今後4年後までに時間外勤務時間 30 時間平均というような話も出てきていますので、ぜひ検討いただきたいと思います。よろしくお願いします。

(事務局 畑)

御提案いただきまして大変ありがとうございます。我々、現場が見えていないところもあるかも知れませんが、今の話を真摯に受け止め対応していきたいと思います。

合わせて、本日、学園の推進リーダーの方も参加されていますので、今ほどあったことを踏まえて、各学園での見直しにも生かしていただければありがたいと思っておりますので、戻られたら、各学園長様と相談いただきながら、改善の取組をお願いしたいと思います。合わせて教育委員会からも、また来年度改めてそのような呼びかけを行ってきたいと思っています。ありがとうございます。

(事務局 武石)

もしほかに無いようでしたら、丸山委員様から、順番に感想でもかまいませんので一言お願いできればと思います。

(丸山委員)

当校の取組から、2つ大事なことがあると思います、お話しさせていただきます。先ほど各学園の取組を聞かせていただいて、改めて三条市は、すごいなと感じました。たくさん資料を作っていただき、また発表していただきありがとうございました。各学園共通しているところもあり、そこは三条市教育委員会の皆様のリーダーシップのもと進めている素晴らしいところだと思います。また、それぞれの学園で特色あるところもありまして、私自身、大変勉強になりました。

では、大事だと思う2点についてですが、まず、1点目が「一つの目標に向かう」ということです。各学園、目指す子どもの姿が決まっていたかと思います。その一つの目指す姿を共有しながら取り組んでいくということが大切だと思っております。

当校では、研究開発学校の指定を文部科学省から受けて取り組んでいるところであります。そのため、幼稚園、小学校、中学校で毎月研修会を行っております。その中で私たちは「イノベーション人材」の育成を目指して、今やっているところであります。一言で「イノベーション人材」とまとめていますが、そこから具体的にどんな姿かということも各校種で共有しながら進めています。「一つの目標に向かう」というところがいろいろな取組の原点になると思っております。

2つ目は、小中学校の教職員が仲がよいことだと思っております。仲がよいということとなく軽い表現にはなるかなと思いますが、三国志の劉備、関羽、張飛も、仲がよかったからこそ大きな功績を果たすことができたと言われております。

実際、会議を開けば開くほど仲がよくなるかといったらそうでもないなとも思っております。今年度から、各校種の対話量を増やすようにしてきました。例えば、各校種で毎回それぞれの取組を紹介するという場があります。その場をポスターセッションというブース形式にして、そのブースでより対話ができるように双方向な形にしてきました。

また、会議に参加すると、小学校は小学校、中学校は中学校のようにかたまってしまいますが、そこも、くじ引きにして、その会議の中でより話す場も増やしながら、近くの人と話していきましようというような形で対話量を増やしています。仲がよいということで「あの先生とまた一緒にこのプロジェクトをしてみたい」「この子どもが気になるけど小学校の時はどうだったかな」など、いろいろなところで連携が生まれてきていると思っております。

その仲がよい一つのバロメーターとして、会議、研修会が終わった後に、先生たちが、その後残って話しているかどうかという点を、各学園で見るとおもしろいかなと思っております。昨年度まではあまりそのような姿は当校では無かったのですが、

今年度、研修会が終わった後も、それぞれの校種を越えて話す場が多くなってきております。

(浅間委員)

子どもたちに、人の話を聞いて、知識を高めるように育ててもらいたいと思います。

(村田委員)

先ほどの発表を聞いた中で身近に感じたのは「あいさつ運動」です。私は、毎日、朝、子どもたちが登校するときに一緒に歩いて見守りをしています。その中で「おはよう」と朝一番で声かけるのですが、なかなか返事が返ってきません。特に1・2年生ぐらいの小さい子は、なかなか返事ができません。そこで、顔をのぞき込みながら「おはよう」と何度か言いますと、子どもの方も「おはよう」と返事をしてくれます。その翌日はどうかなと思っていると、やはり返事はあまりうまくできません。しかし、そういうことを重ねていくうちに、いつの間にか、3年、4年になってくると向こうの方から声をかけてくれます。道ばたの畑で作業をしているおばあちゃんたちにも「おはよう」と声をかけることもあります。やはり続けるということが大事ではないかという気がいたします。そんなことをこれからも微力ながらやっていきたいと思っています。

(熊倉委員)

先を見据えての取組のお話ありがとうございました。よろしくお願いします。

(佐藤委員)

今日、各学園の取組、実績などを聞けてよかったと思います。これからもよい学校づくりをしていただきたいと思います。ありがとうございました。

(金子委員)

本日はいろいろな話を聞かせていただきまして誠にありがとうございました。私のいる第二中学校は、一つの小学校と一つの中学校ということで、複数の学校が集まる学校ではありません。複数の学校が集まって、一つの学園を作るという大変さ、それと、小中学校の交流だけでなく、小学校と小学校のつながりも大切に活動していただいているということをお聞きし、とても勉強になりました。

また、運営協議委員会の方も、それぞれの学校のお話をまんべんなく吸い上げるということは、やはりそれなりの苦勞もされているんだろうなということを実感させていただきました。今日は、本当にいろいろ勉強させていただきましてありがとうございました。

(事務局 畑)

今回は各学園の取組の成果と課題を報告していただくことになっております。昨年度のこの委員会で、委員の方から「対策はどうなっているのか」というお声をいただきました。成果と課題が出てきて、それについてどう対応し、どう改善していくか、そういう部分についても次回はお話しいただきたいと思っておりますので、成果と課題と改善策という点で準備をお願いします。また、詳細につきましては、次回が2月開催を予定しておりますので、1月にはお知らせできればと思っています。よろしくお願いいたします。

(6) 閉会のあいさつ

(高橋副委員長)

本日はありがとうございました。まず、各学園におかれましては、これまでの取組について御丁寧に発表していただきました。大変学ぶべきことが多くて、それぞれ生

かせるものもあったのではないかなと思っております。

今日は3つの視点から発表があった訳ですけども、その中で、交流活動とキャリア教育については、活動を伴いますので見えやすいかなと思いますが、カリキュラムについてはなかなか見えにくいかなと思っています。ですが、小中一貫教育については、カリキュラムが一番大事だと思っていますので、これについて考えていきたいなと、今回また思いを強くしました。

少し当校のことも含めながらカリキュラムについてお話しさせていただきます。まず、2つ大事な点があると思います。1つ目は、正に、附属小学校の丸山先生がおっしゃられましたけれども、一つの目標に向かうということです。目標がある程度具体的で、一人ひとりの職員がその姿を頭に描けるといふところまで共有していることが必要ではないかなと思っています。

私たちは、先ほど一ノ木戸ポプラ学園の発表でも話がありましたけれども、小中学校一緒に、5つの目指す資質・能力を一緒に作ったり、一緒に見直したりということをしています。

2つ目は、カリキュラムが日々活用されるものになることだと思っています。学びの系統表と指導の構想については具体として頭に入れておいて、9年間の見通しを持ちながら、日々使えるものは何だろうと考えました。今回、当学園の発表をさせていただきましたが、各部ごとに簡単なカリキュラムを作りました。例えば、「まなび」部では、「(学習問題)◎で貫く小中一貫教育カリキュラム」ということで、低学年では、子どもの問いや願いに沿った(学習問題)◎の設定。中学校3年生に向かっていくと、教科の内容の意味や価値を感じた(学習問題)◎の設定ということ、そのポイントを仮に作ってみました。それぞれやってみて成果と課題を協議しているところでございます。それぞれの部でも作っています。振り返りの時に「あっ、やってなかったな」ではなくて、日々やってることができるようものをまず作っていききたいなと思っていますところ。ぜひ今後も、それぞれの学園のカリキュラムについて、育てたい姿をしっかりと出し、その成果と課題も出し合いながら学んで行けたらいいかなと期待しているところでございます。

最後になりますが、委員の皆様からたくさん意見をいただきました。ぜひ、学んだことを各学園の教育に生かして、また進んで参りたいというふうに思っております。本日はどうもありがとうございました。

(事務局 武石)

雲尾委員長並びに委員の皆様、長時間にわたり御参加いただきましてありがとうございました。

次回は2月ごろの予定となっております。また決まり次第、御案内をさし上げます。

以上をもちまして第45回三条市小中一貫教育推進委員会を終了いたします。お帰りの際は、十分お気を付けてお帰りください。本日は大変ありがとうございました。

(7) 閉会 午前11時35分